

分野	重点目標	自己評価			学校関係者評価	今後の改善方策
		具体的な取組	評価指標	達成状況		
魅力ある学校づくり	PDCAサイクルを重視した効果的な学校経営を推進し、地域から信頼される学校づくりを行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校・家庭・地域との連携を密にし、信頼関係を醸成する。</li> <li>学校関係者とのより深い信頼関係を構築し、教育環境の整備に努める。</li> <li>学校評価を実施し、学校運営を検証するとともに、それを地域に発信する。</li> <li>コンプライアンスを徹底する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校HPの毎月更新。</li> <li>杜陵通信4回発行。</li> <li>各行事へのFTA会員の積極的参加。</li> <li>毎月のコンプライアンススピーチと年2回の研修実施。</li> <li>学校評価結果のHPでの公開。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校説明会に参加者が増えていることについて、個々の生徒に丁寧な対応をしていることが周知されたものといえる。</li> <li>生徒アンケートの学校生活の励みに対し、「家族や職員からの励まし」「友人や職員との触れあい」が多い。今後とも一人ひとりに寄り添った指導を。</li> <li>保護者アンケートの回収率が低い。通信制ゆえ仕方ない面もあるが、工夫してほしい。</li> <li>理事会総会や各種行事などで、FTA会員の参加率が低いのであげる工夫をしてほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>HPの内容の充実等、杜陵高校通信制の魅力をもっと外部に積極的に発信する。</li> <li>今後とも個々に寄り添った指導を継続する。</li> <li>保護者アンケートは前期成績通知に同封していたが、手渡しする方法に改め、回収率向上をはかる。</li> <li>各種行事へのFTA会員の参加率について、周知の時期を早めるなどして高める努力をする。</li> </ul>
学習指導	授業の充実と学力向上及び単位修得率のさらなる向上をはかる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>RS調査を実施し、スクーリング出席率の向上やレポート提出のルールを守らせる指導体制の確立に努める。</li> <li>授業力向上に努め、わかりやすい授業の実践に取り組む。</li> <li>学習に関するアンケートを実施し、学習状況の把握や、生徒の困り感の把握に努める。</li> <li>校外の研修会等へ積極的に参加する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>単位修得率85%以上。</li> <li>教科の勉強が大切と答えた生徒割合。</li> <li>国95% 数87% 英85%</li> <li>教科の授業が役に立つ。</li> <li>国95% 数77% 英85%</li> <li>教科の授業内容がわかる。</li> <li>国80% 数55% 英50%</li> <li>校内研修会3回以上。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>単位修得率86,7%(前期)、80%(後期)。後期の80%超は過去5年なかったこと、継続を。</li> <li>教科の勉強が大切との回答、国93%、数84%、英88%。教科の授業が役立つとの回答国91%、数79%、英82%。概ね生徒はスクーリングに対し肯定的。</li> <li>レポート返却時に生徒一人ひとりに丁寧なコメントを書いており生徒も楽しみにしているようだ。</li> <li>レポート返却を楽しみにしている生徒が多い。人に認められたという思いを大切に育ててほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>レポート提出期限を統一するなど、提出率を上げる指導が単位修得率向上につながった。継続した指導を行いたい。</li> <li>レポート作成困難な生徒を対象にしたレポート作成タイムを設定する。</li> <li>観点別評価の実施に伴う新しい教務内規や申し合わせ事項の共通理解をはかる。</li> <li>学習に関するアンケートを継続実施し、生徒の状況把握に努め、課題の改善をはかる。</li> </ul>
生徒指導	明朗な学校生活と生活指導による人間形成の充実をはかる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の実態を的確に把握し、問題行動防止のための事前指導を徹底する。</li> <li>学級担任の個別面談による実態把握、指導を進める。</li> <li>生徒会役員の指導とリーダーの養成をはかるとともに、行事や部活動をととした自己実現の援助を行う。</li> <li>積極的な図書館利用の指導と、図書資料の整理・購入・活用に努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>現在の高校生活に満足と答えた生徒割合80%。</li> <li>自分に良いところがあると答えた生徒割合60%。</li> <li>学校評価アンケート各項目の生徒のA・B評価80%。</li> <li>問題行動0件。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>「現在の高校生活に満足」84%、「自分には良いところがある」63%。レポートの添削が丁寧な事など、認められたという認識が高まったこと等による。</li> <li>諸行事への参加に積極的な回答が31%、一方で「参加したい行事がない」が50%、工夫願いたい。</li> <li>諸行事に関する職員アンケートでの肯定的評価が50～60%台。全職員で思い出に残る行事の検討を。</li> <li>人前で話をすることで人格が形成されるので、生活体験発表大会への取組の充実を。</li> <li>問題行動2件、限りなく0に近づけてほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き的確な生徒の実態把握に努め、問題行動の未然防止をはかる。</li> <li>行事や部活動を通し、それぞれの生徒の個性を伸ばし、自己実現の援助をはかる。</li> <li>校内生活体験発表大会への取組をより充実したものにす。</li> <li>生徒希望図書の精選を目指す。</li> </ul>
進路指導	きめ細やかな進路指導による進路希望の達成。	<ul style="list-style-type: none"> <li>進路希望調査に基づき、生徒の実態把握を行い、就職・進学希望者の進路達成に向け、指導の充実をはかる。</li> <li>面接試験指導・個別添削指導・小論文指導等を通じて、進路希望実現のための手助けを行う。</li> <li>生徒の実態に即した指導をはかるため、諸機関と連携するとともに、ボランティアやアルバイトを奨励する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>進路希望達成率80%。</li> <li>学校は生徒・保護者と連絡を密にしながら進路指導を行っている、保護者のA・B評価80%。</li> <li>同上、職員のA・B評価75%。</li> <li>学校と家庭との連携は十分に取れている、保護者のA・B評価80%。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者の「連携を密にしながら進路指導を行っている」75%。「連携は十分にとれている」84%。概ね問題なさそうだが、なお一層の保護者との連携を。</li> <li>職員の「適切に進路指導が行われている」83%、以前より向上しているのが良好。</li> <li>就職・進学・アルバイトに関する悩みが多いが、それを誰にも相談できない生徒が8%いることが問題。</li> <li>就労支援や就労訓練に関っていない生徒の進路決定率や定着状況が悪いので改善を。</li> <li>進路の方向性が全く定まっていない卒業生が数名存在している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>卒業後の生徒が引きこもりやニートに陥らぬよう、適切な外部機関とつながることを目指す。</li> <li>アルバイト許可届（就業証明書）を作成し、生徒の勤務状況の把握に努める。</li> <li>進路課と担任でタイアップしながら、進学希望者に対する手立てを強化する。</li> <li>進路ガイダンスは一般入学生から「問題意識を深められた」と好評であったので、継続実施する。</li> </ul>
特別支援教育	生徒個々がかかえる問題に対応した教育の実践。	<ul style="list-style-type: none"> <li>スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーとの情報交換を開催し、問題を共有し、支援の方向性を確認する。</li> <li>多様な課題を抱える生徒の実態に即した支援を行うため、地域や外部機関・前籍校との信頼関係を構築し、連携を深める。</li> <li>学習会を計画的に開催し、その専門性の向上をはかる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域連携NW会議2回。</li> <li>特別支援校内委員会7回。</li> <li>特別支援学習会3回。</li> <li>生徒情報交換会5回。</li> <li>「TOGETHER」4回。</li> <li>「保健だより」10回。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>左記の会議等は目標回数をクリアしている。相当の苦労があったと思う。感謝したい。</li> <li>本校の特支教育に関する姿勢・体制に共感する中学校が増加、不登校等に対する連携が強化された。</li> <li>各圏域NW会議や本校の地域連携NW会議等で、本校と行政・支援団体との連携が機能している。</li> <li>保健だよりを号外も含め14回発行したのは素晴らしい。内容も読み応えのあるものである。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>より一層SCやSWと連携し、生徒の社会的自立に向けた支援を充実させる。</li> <li>「TOGETHER」は、読んだことをきっかけに支援機関につながるなどしているのを、継続する。</li> <li>要支援生徒の自立に向けた支援や就職に関して、関係機関との連携を一層深める。</li> </ul>